

# BOOKS

著者の堤末果氏は9・11の後「今だけ力ナド自分だけ」で突き進むウオール街の価値観に嫌気がさしてアメリカから帰国した。国連、米国野村証券を経て、現在は国際ジャーナリスト。本書では、水、土、種、森林、農地、海など、日本の貴重な資源が外国企業によって買われている現状と、それを推進する政策や法改正について解説する。更に医療、教育、介護など、日本人の将来を大きく左右するサイバースゲーミングの対象

**日本が売られる**  
堤末果

日本が売られる、起きている。米・中・EUのハゲタカどもが日本を買い漁っている!

幻冬舎新書 新刊

## 日本が売られてしまわないために

堤末果・著  
幻冬舎・刊

世界銀行(WB)や国際通貨基金(IMF)は、財政危機の途上国に融資する際の条件として、水、電気、ガスなどの公共インフラの民営化推進を途上国に要求してきた。結果として先進国の民間企業の手に入ったサービスは、値段が高騰し質も悪くなり貧しい人々をさらに苦しめた。その後アルゼンチンやボリビアが莫大な賠償金を払って水道を再国営化した流れに逆行するかのようになり、日本政府が水道の民営化を進めようとしていることを、もともとマスコミは報道するべきだと主張する。証券会社勤務経験もある著者はウォール街では五つ星投資商品で、財界から見る宝の山だそうだが、一方、介護の過酷な労働環境や弁護士の人手不足

という問題に直面する日本は、根本的な解決策やいままに外国人労働者によつて人手不足を穴埋めしようとしていると警告する。「経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)」で、2025年までに50万人の外国人労働者を受け入れる方針を発表した日本政府に対し、移民は100年単位で受け止めるべきもので、「商品ではない」と釘をさす。すべての民営化が悪く、公営であるがための無駄や非効率性もある。問題は、人権として保障されるべき基本的なサービスまでもが利益至上主義の民間に売られることを、国民としてどう捉えるかだ。巻末で紹介されるスペインのある市議の言葉が胸に響く、「公共サー

ビスを民間に売り渡すことは、結局高くついた代償は、自分の頭でどう考えて、そのプロセスに参加するチャンスを失うか何もかも「経済」という物差しでしか判断しなかつた。与えられるサービスに文句だけを言う「消費者」になりながら、自分たちの住む社会に責任をもつてかわるべき「市民」であることを忘れてしまっていた。

「今だけ力ナド自分だけ」という考えでは「市民」にはなりえない。外国人移民も増え多様性と共生が求められる日本で、私たちはどのような「市民」になるべきか。秋の夜長に考え始めると、眠れなくなりそうだ。

(櫻井真美)

### AMERICAN BOOK JAM

『Every Day is Extra』  
Written by John Kerry  
Published by Simon and Schuster

「ジョン・ケリー自伝」

たが、どの軍に志願したらよいか迷ったという。その後政治の道に入るのだが、マサチューセッツ州という土地柄ケネディ家とも近い関係で、ジャクソン・ケネディの異父姉妹とよくデートをしていた。本書では、幼年期から始まり、学生時代、ベトナム戦争、政治家としての自分などが語られている。センセーショナルな政治ニュースばかりが飛び交う今のアメリカで、ある種の退屈さを感じ、彼の自伝をゆつくり読み進めるのはたのしい。

(秦隆司/アメリカン・ブック・ジャム編集長)

林真理子  
みずうみの妻たち

MORI Magazine

ある世捨て人の物語

人生は、運よりも実力よりも「勘違いさせる力」で決まっている

スードがわかれば美術がわかる

人殺しの息子と呼ばれて

■即買える新刊を紹介

BUY BOOK ON LINE  
オンラインですぐ注文できます  
デジタル版www.nyseikatsu.comでここをクリック

BOOKS Kinokuniya

▲クリックすると新刊購入サイトへ!

90年代に新聞連載された不倫小説。工学博士・森博嗣の新たなタイプエッセイ。美術をより深く理解し楽しむための入門書。殺人者の息子に生まれた25年の人生。

■みずうみの妻たち 上・下(林真理子、角川文庫) 老舗和菓子屋に嫁いだ朝子は、浮気に開き直る夫にある日「フランス料理店を持ちたい」と告げる。東京の建築家に店舗設計を以来し順調に滑り出した矢先、レストランで夫の愛人に遭遇してしまう。1990年代に新聞連載された不倫小説の初書籍化。■MORI・マガジン(森博嗣、だいわ文庫) 工学博士でミステリー作家の森博嗣がおくる架空の登場人物たちとの掛け合い、鋭い洞察力にバツリ斬られる人生相談、そして3人の「森博嗣」による奇妙な座談会。書籍と雑誌、フィクションとノンフィクションの面白さを駆け巡る新タイプエッセイ。■ある世捨て人の物語(マイケル・ファンケル、河出書房新社) 20歳の時に家を出てから27年もの間、メイン州の森の中で読書と瞑想をしながら生活していたクリス。現代社会のしがらみをすべて捨てて、森でひとりで生きていたい。人間にとっての孤独や自由、幸福とは何かを考えさせられる一冊。■人生は運よりも実力よりも「勘違いさせる力」で決まっている(ふるむだ、ダイヤモンド社) 人生を好転させる「錯角資産」を増やす実践方法を心理学やマーケティングなどの知識で紹介する。多様な業務経験を活かして仕事論などの記事で人気を博したブログの著書、ふるむだのデビュー作。■スードがわかれば美術がわかる(布施英利、インターナショナル新書) 美術館にはなぜ服を脱いだヌード作品がたくさんあるのだろうか。女神像が服を脱いだ古代ギリシャ時代から現代美術までをたどり、印象派や藤田嗣治のヌード作品にも言及する。ヌードの歴史や鑑賞のポイントをつかみ、美術をより深く理解し楽しむための入門書。■人殺しの息子と呼ばれて(張江泰之、角川書店) テレビ放送されたノンフィクションの書籍化。「北九州連続換金殺人事件」の犯人で死刑判決が確定した父親と無期懲役の母親を持つ長男へのインタビューは、音声加工なしで事件のありさまやその後の苦悩の人生が語られ、大きな反響を呼んだ。悲しい過去を背負いながら生きた、殺人者の息子の25年の壮絶人生。

(高田由起子)

■書籍データ/資料提供・紀伊國屋書店NY本店

### 河村尚江個展

From the Silk Road

10月31日(水) - 11月4日(日)

オープニングレセプション  
11月1日(木) 午後6時-8時  
(アート&ギフトショーと同じ日時に開催)

NEW YORK ART WAVE PROJECT

会場: アショク・ジェーンギャラリー  
住所: 58 Hester St. New York NY 10002  
電話番号: 646-445-0080  
連絡先: nyartwave@gmail.com  
website: www.nyartwave.com

テキスタイルデザイナー 河村尚江

◆作品・受賞歴◆  
1994 第13回 染織作品展 入選(横浜シルク博物館)  
2013 ゴッホ生誕160周年記念「ジャパン芸術祭」金賞受賞(フランス)  
◆教育◆  
1994 多摩美術大学 デザイン科 染織デザイン専攻 卒  
1996 多摩美術大学大学院 デザイン科 終了

2016-17 光風会 奨励賞受賞  
2016 (公)岐阜県産業経済振興センター 事業可能性評価認定 美濃友禪(岐阜)

### Hidetaka Miyadate 宮舘 秀昂 個展

「try not to forget」

11月1日(木) - 30日(金) 毎日開催  
月-金 午前7時-午後7時半  
土日 午前7時半-午後7時半

Cafe Grumpy Park Slope  
383 7th Ave., Brooklyn, NY  
最寄り駅: 地下鉄F, G線の7 Avenue駅

オープニングレセプション  
11/1(木) 午後6時-7時 入場無料

日本人作家 宮舘秀昂(みやだてひでたか)が新作披露の個展を開催します。「共感性」をコンセプトに、宮舘の作家人生の中でも大変挑戦的な試みを施した作品を展示致します。新作を制作する上で、線の運び方、使用する色や画材の運び方、そしてそれらの使い方を徹底的に見直しました。抽象的な表現を採用しながらも、鑑賞者とのコミュニケーションを深く図りたいという想いで言葉のように気持ちを伝えることを模索、各々の作品に色濃く映し出しています。作家、宮舘の新しい表現を、今回の展示を通してお楽しみください。